

宝達志水町地域公共交通協議会設置に至る経緯について

宝達志水町においては、平成15年3月に民間の路線バスが一部区間で廃止され、地域交通に多大な影響がでたことに伴い、町内全域を対象エリアとしたデマンド（乗合い）タクシーを導入した。このデマンドタクシーは全国的に早い段階で整備しており、自分で車を運転できない高齢者等の交通弱者にとって、生活に必要不可欠な交通機関として機能してきた。

また、平成27年4月に宝達中学校の開校時に整備したスクールバスを、新たな地域交通として活用できないかとの観点から、スクールバスの空き時間に町内を巡回するコミュニティバスの実証（試験）運行を開始。1年間の試験運行の後、平成28年4月から本格運行を開始した。

このように当町においては、2種類の地域公共交通を運用しており、地域住民の多様な交通ニーズにできる限り対応しようと努めているところであるが、他方、無償運送のコミュニティバスの運行が、有償運送のデマンドタクシーの利用者数の減少に影響を与えるなど負の影響も見受けられる。

今後、加速度的に進行する人口減少と少子高齢化を踏まえ、より効率的な地域公共交通のあり方を模索すると同時に、現状の地域公共交通の最適化に対応するため、公共交通のマスタープランとなる「宝達志水町地域公共交通網形成計画」を策定する。

なお、上記計画の策定については、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」で定められた法定協議会の設置が必要であることから、これまでの宝達志水町地域交通会議を発展的に改組し、宝達志水町地域公共交通協議会の設立とする。